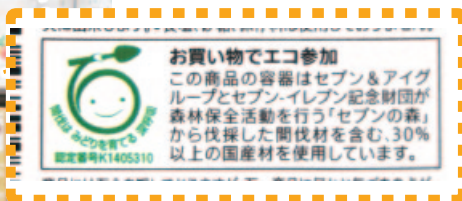




いろんな紙製飲料容器にも
間伐材が使われています。



この紙コップの外側スリブ部は間伐材を含む紙を使用しています。中身は熱いのでやけどにご注意ください。扱い方によっては漏れる場合があります。落としたり、むりな力を加えたりしないでください。

カップ裏面の
間伐材マーク



セブンカフェのホットカップにも
間伐材が使われています。



「セブンの森」におけるグループ社員などのボランティア活動

「セブンの森」での森林整備活動や、そこから得られる間伐材を利用した商品の企画・開発を行い、小売業としては初めて「間伐材マーク」の認定を受け、全国の店舗で販売を行うなど、森林づくりから木づかいまでをも推進する、セブン&アイ・ホールディングスの取組をご紹介します。

「セブンの森」での森林づくりの取組

セブン&アイ・ホールディングスは、一般財団法人セブン・イレブン記念財団と連携し、行政や森林組合、NPO法人などと協定を結び、北海道から宮崎県の全国15カ所、300ha余りの「セブンの森」で、森林整備活動に取り組んでいます。昨年は、2,000人近い参加者により、15,000本の苗木の植栽や、下刈りや間伐などの保育作業などを行っています。

なお、「セブンの森」での間伐材は、紙製容器という形で商品として販売されるようになりました。我が国のパルプ・チップ用の木材の自給率は17%(H25)ですが、プライベートブランド「セブンプレミアム」の商品のラインナップの一部の紙製容器に、「セブンの森」からの間伐材を一部含む国産材を30%以上使用、これを明示した商品の販売が開始されています。

「セブンの森」から得られた間伐材を 商品の紙製容器に利用!

昨年8月には、「セブンの森」からの間伐材を含む紙製飲料容器「カートカン」の野菜・果物飲料の販売が開始されました。また、昨年10月に販売が開始されたヨーグルト飲料と春雨スープの紙製容器にも、「セブンの森」の間伐材を一部活用した用紙を使用しており、間伐材マークを取得しています。これらは、セブン・イレブン、イトーヨーカドー、そごう・西武などのセブン&アイグループ各店舗で販売されています。

また、全国のセブン・イレブン店舗を中心に年間約7億杯を売り上げているドリップコーヒー「セブンカフェ」のホットカップの大半が、間伐材を使用する仕様に切り替わっており、「間伐材マーク」がカップ背面に印刷されています。

間伐材が使用されていることや、間伐材マークに気づいてない消費者も現時点では少なくなく、認知促進が課題のようです。

これら商品を手取る機会がありましたら、背面の小さな間伐材マークを見つけてみてくださいね。

間伐材製品を使用することが、間伐などの森林整備を推進することにつながります。

間伐材を紙製容器に使った商品



セブン&アイ本社総合受付木製ベンチ等

